

英国慈善学校の組織化特性に関する研究（その4）

(The Research on the Organizational Characteristics in the British Charity Schools. Part 4)

—官僚としての役割を持った職員：書記と執行員—
(The Workers in the roll of Bureaucracy : Secretary and Agent)

栢 植 秀 通

1. 初めに

著者は、これまで3度にわたり英国慈善学校の組織特性について探求してきた。第1報においては、研究仮説の設定とその組織特性の外観についてみてきた。そこでは、この英国慈善学校運動の中に、近代的な組織特性があるのではないかと仮説を建て、その基本的特徴について外観してきた。第2報においては、その組織特性の基本となる会費と会員というシステムについて探求した。また、第3報においては、組織の基礎となるルールについて探ってきた。

そこで、今回は、慈善学校に関わる職員、特に近代組織における中心的役割を担う、官僚と呼ぶ（少なくとも官僚制へと向かう）存在として、専従化する書記（Secretary）と慈善学校の執行員（Agent of School）について考察していきたいと考えている。というのも、ウェーバーの官僚論に従えば、官僚制は単に行政組織のみでなく、あらゆる領域の「近代的」形式の発展に、必要である（Weber=2012:44）からである。この点では、慈善運動における合理的組織的發展においても、官僚制の發展は欠くべからざる存在である。この發展なくして、組織的な活動を、特にイギリス全国にわたって行うという事は不可能だからである。特に、以下に述べるように、概ね他の慈善団体においては18世紀半ば以降に発生し始める事務職員の専従化が、慈善学校運動においては18世紀初頭の運動誕生期に既に発生し始めている点を考えても、この特性が慈善学校運動を、組織的運動として、他の慈善活動以上に支えていたことは想像に難くない。

もちろん、官僚制が必ずしもよいものではないことは、今や当然のことである。しかし、組織の合理化の過程においては、重要な要素であり、慈善組織においても、さらに現在の福祉組織においても、組織運営の事務および実務に携わる専従職員の存在は不可欠である。このような組織運営に携わる存在なくして、現在の組織的な福祉は考えられない。

こうした点でも、他の組織に先立って、事務に携わる専従職員たる書記や、運動の運営実務に携わる専従職員の執行員という職制を確立した慈善学校運動が、慈善組織の發展の歴史において、非常に重要な事業であったことを見ることができると考えられるのである。

2. SPCK の組織的業務に携わる職員

専従事務員の設置は、クラークが述べるように、協会における組織の最重要課題の一つである（Clark 2000:256-257）。それが、17世紀初頭に現実化したものが、SPCK 全体としての書記の設置・有給化であり、慈善学校運動に限れば、執行員の設置と有給化である。

それに比べ個々の慈善学校では、教員以外の専従職員を置くケースはあまり見られなかった。たとえばオックスフォードにあるグレーコート慈善学校の1759年から1765年まで6年間の報告を見てみよう。そこでは毎年40ポンドの給与が教員に支給されていた以外に、人件費支出としては、会計（collector）

に年額5ポンドのお金が支給されていただけであった(Gray-Coat Charity School 1765:3, 5)。この金額は18世紀半ばにおいても、個人宅に雇われる女中の年俸にさえ及ばない。言ってみると、謝金というレベルの金額でしかない。となれば、会計を担える人材が、専従職員として働いていたとは考えられない。

一方、スコットランド エジンバラ (Edinburgh) にある孤児院・ワークハウス併設の慈善学校では、事務員が働いていたことが記録にあり、明言はしていないが、専従職員であった可能性が高い(Unknown 1759:9)。しかし、これは複合施設における例であり、規模の大きくない一般の慈善学校で、教員以外の職員が専従していた可能性は低いと思われる。実際、以前の報告において述べたブルーコート慈善学校ほどの大きな学校にあっても、明確に位置づけられた事務職員の存在は確認できない。この学校では、その人件費の総額から考えるとⁱ、おそらく5～10人ほどの職員が有給で働いていたのであろうから(Blue Coat Charity School 1832:55)、少なくとも下働きをする職員などの存在は確実にあったと思われる。また専門的に事務等をこなす職員が存在した可能性もないとは言えない。しかし、その存在は、明確な規約によって整除された権限の原則が存在する、いわゆる位階制のもとにある事務官僚といった存在を持っていたとは考えにくい。

このような理由で、特に事務に係る専門的な職員が専従職員として勤務していた慈善学校は、あまりなかったものと思われる。少なくとも規約に位置づけられた位階制に基づいた職員というものは、教員以外には、多くの場合存在しなかった。

しかし、慈善学校運動の中心である SPCK においては、規約に基づく専従の事務職員としての書記の存在と、規約には明確に謳われてはいないが、議事録に書かれている過程を見れば、徐々に位階制の元に整除されていく、専従の実務職員としての執行員(agent)の存在があった。これら2つの専従職員は、それぞれ書記が事務を担う官僚的存在として、執行員が慈善学校運動の普及の実務に当たる実務官僚的存在としてあった。この2つの存在について、以下詳細に、その実態について見ていくことしよう。

(ア) 書記

書記という職種は18世紀においても、何も SPCK のみが保有していた職種ではない。多くの他の協会においても当初から採用されていた。たとえば、18世紀初頭のロイヤルソサエティにおいても、書記が他の会員と同様に会長の支援をしていたことが述べられている(Royal Society 1710:6)。

しかし、彼らが有給の職員になることは、ほとんどなく、その有給化は、通常18世紀後半以降のことである(Clark 2000:257)。しかし、SPCK では、1708年以降には本格的に書記が専従職となっていった(Clark 2000:257)。SPCK の書記が、このように早期に専従化した理由としては、その業務内容の複雑・多忙化が挙げられるⁱⁱ。SPCK の規約には、以下のようにその内容が述べられている。

書記 (Secretary) に関わる規約 (Order)

1. 書記は、協会および委員会の議事録(Proceeding)の公式な写し(fair Copy)を、書籍または書籍群(Book or Books)に、その目的にしたがって、保管する。
2. 書記は、協会宛のまたは協会から送られた全書簡(letters)の要約(Abstract)を作成し、書籍または書籍群に前項と同様に入れておき、その目的にしたがって保管する。ま

ⁱ 人件費の総額は、203ポンド2シリング8ペニーである。18世紀の女性教員の給与が24ポンド(Jones 1938 :100)ということを考えると、たとえ、雑役婦などを入れて、低額に抑えたとしても、一人平均20ポンド以下に給与を抑えることは不可能であろう。となれば、この金額で雇用できる人数は、最大見積もっても10人までとなる。

ⁱⁱ 文書に関する業務の煩雑化について、マックス・ウェーバーは「行政の官僚化をうながすほんらいの基盤は、むかしから、特殊な行政事務の発達であったのであり、しかもまず第一に、行政事務の量的発達であったからである。」(Weber 1964:318)と述べ、官僚化との強い関係を主張している。

た、あらゆる会員に送付された一般の書簡（general Letters）全て、別の書籍（Book）にその写し（Copies）を入れておく。さらに、その他の書簡や書類（Papers）は、協会または委員会が保管する。

3. 分類された書籍群等（Books, viz）に、目録（Index）を保持する。収められるものは、書簡の要約（Abstracts of Letters）や、議事録（Minutes）に含まれた他の事項などの、名称である。

4. 協会の報告（Account of Society）に載せられた全書簡は、書記代理によって、ホルボーン（Holborn）のパートレット（Bartlet）ビルに保管され、委員会にもたらされる。

5. もし、通信会員（Corresponding member）が協会との連絡（Correspond）を、書簡または他の方法によって、12ヶ月の間、途絶え（omit）させるならば、書記はその途絶（omission）についての告知（notice）を、協会に与える。

6. 書記は、議長（Chairman）に、協会の集会（Meeting）ごとに、適当と思われれば、常備規約（Standing Order）の写し（Copy）を、読まれるために提出する。

7. 書記は、集会ごとに、協会に未決のまま（undetermined）の諸事業（Business）についての報告（Account）を提出する。

8. 書記は、四半期ごとに全常任会員（all the Subscribing Members）に、それに先立つ四半期に、協会によって承認された（admitted）、新たな書籍（Books）と書類（Papers）全てをそろえて一組を送付する。

9. 書記は、会員に送付した全書籍（Books）やパッケージにしたもの（Packets）の記録（Account）を保管する。また、同一の報告を四季勘定支払日後、最初の月例集会（Manthly Meeting）に、協会に提示する。

10. 書店（Store）へ販売員（Bookseller）によって、または、他の特別な方法（extraordinary Services）によって供給される（furnish）書籍（Books）に関する協会の全ての指示（Orders）は、書記（Secretary）が記名（sign）し、販売員が、その目的に従って、表（Bills）と共に、監査（Audit）において販売員が製作する証書（Vouchers）と同様に、ファイル（File）に保管する。

11. 協会が、書籍を配布（distribute）し、その書籍の価格（Price）を安定（settle upon）させることを、承認（approve）したとき、書記は、折々に行われるように、その地方の会員（members）に通知を与える。

12. 書記は、四半期に一度、選任された（chosen）常任会員や、会費を拠出していない、または出席していない（have not attended or subscribed）会員の名簿（List）を、協会に提出する。

13. 書記は、監査の後ごとに、公式（fair）に、以下の四つの書籍（Books）を作る。それは、報告と関係する以下の書籍である。

一般的な（in General）、本協会の設計（Design）について

東インド（East-India）に対する、新教の伝道（Protestant Mission）について

新約聖書（New Testament）と詩篇（Psalter）の、アラビア語（Arabick）での出版（Impression）について

4000ポンドのパルマー夫人の遺贈（Legacy）について

14. 書記は、協会の年次集会（Anniversary Meeting）において、前年の重要な事務処理（Transactions）についての要約（Abstracts）を提示する。」

（SPCK 1732:10-12）。

彼らの第一の役割は、1～4に示されたように、SPCKの膨大な文書群の保管・管理であった。特

に、集会や委員会の議事録を保管・管理すること、SPCKにかかわる全書簡の保管・管理であった。特に、管理の中には、単に整理してしまっておくのみでなく、目録（Index）を作り、書簡については要約（Abstract）を作って、常に閲覧・活用できる状態にして保管しておくことが求められていた。

さらに、書記には5にあるように、通信会員との連絡の実務が任せられており、上述のように全書簡は書記のもとで管理されていた。さらに、通信会員のSPCKとの連絡の状況も、書記によって集会・委員会等に報告されていた。

また、SPCKは慈善学校の業務などのほかに、書籍の発行・販売を行っている（現在では、むしろこの事業がSPCKの中心的事業である）が、10・11にあるように、その指示等は、協会の命により書記が職員に伝達するようになっていた。

これらの事業のほかに、書記の役割として最も重要な業務は、報告業務である。この報告業務は、上述の諸業務をさらに上回る内容であった。彼らは、毎月行われるSPCKの集会に、前回報告以降の未決の業務を文書で提出することを義務付けられていた。さらに、四半期ごとに、その間に発行された書籍、提出された書類等、全ての文書を、全常任会員に送付する義務を負っていた。また、同じく四半期ごとに会員の集会への出席状況、会費の提出状況などを書類にして、協会に提出していた。さらに、監査を受ける義務も負っていたが、その監査の後に、協会の基本業務方針、東インド伝道、聖書のアラビア語出版の状況、それからこれはある時期に特別にであるが、4000ポンドの膨大な遺贈の処理について、それぞれを書籍にして報告することになっていた。最終的に、これらの膨大な業務を要約した報告書を、年次集会（Anniversary Meeting この内容については記録がないが、おそらく年次総会にあたる大規模な集会と思われる）に提出することになっていた。

このような書記のほかに、SPCKの事務に係る重要な職種としては、会計があった。この業務の最初の担当者は治安判事のフック氏であるが、彼は同時にSPCKの会員でもあった。また、1741年の報告当時の会計である、ディーン氏は牧師であり、教区の副監督であって、同時にSPCKの会員でもあった。ここから、SPCKは、いかに業務が大変でも、会計に専従職員という職制を与えようとはしなかったことが伺える。その理由は、分からないが、書記が早期に専従化したのに対し、会計は専従化の傾向が見られなかった状況を見れば、何らかの意図をもって専従化を拒んだのであろうと推測されるⁱⁱⁱ。

この職員の専従化、特に、組織運営にかかわる分野の専従化は、クラークが述べるように（Clark 2000:256-257）、組織の中央集権化の重要な要素であり、オーウェンが述べる所有と支配の分離の過程を示す（Owen 1968:12）。すなわち、近代的経営に繋がる重要な要素である。

これらの要素は、ウェーバーが述べる官僚制の6つの要素と重なる面を持つ。その6つの要素とは、(1)明確な規則によって整除された権限の原則が存在する。(2)「官職位階制と審級性との原則」が存在する。(3)職務の遂行は文書に基づく。(4)専門的な職務活動は特別な専門教育を前提とする。(5)職務上の完全な活動は業務の兼務を許さぬ全労働力の発揮を要求する。(6)職務の遂行は明確で習得可能な規則に従って行われること（Weber=1971: 302-303）の6つである。

特に、上述のように、書記の業務を決定する明確な規則と、文書を基本とした業務、専従職化は、この6つのうちの重要な要素であり、官僚そのものとは言えなくとも、官僚制へと向かう傾向があったことがうかがえる。また、次項に述べるように、執行員にも同様の傾向があった。

(イ) 執行員^{iv} (agent)

ⁱⁱⁱ おそらくでしか言えないが、会計の公平性を保つためにも、専従職員として、SPCKから利益供与を受けることがないようにとの意図があったことも考えられる。

^{iv} 通常、Agentの訳語としては「代理人・代弁人」等の日本語が適用されるが、慈善学校におけるAgentは、何らかの交渉のためにSPCKの意志を代弁して語るといよりも、SPCKの意志に基づいて、慈善学校における実務を執行する役割という意味で、執行員という訳語を筆者が当てはめてみた。

上述の事務官僚と言える書記と同様に、慈善学校の実務において、決定的な役割をになった専従職員として、慈善学校の執行員（agent of charity school）がいる。書記が事務における官僚であるならば、執行員は慈善学校の実務に関する指導・執行を行う官僚と言える。近現代の日本で譬えれば、かつての通産省の官僚が、業界の指導・監督に当たっていたことと比定できる存在と言える。

この執行員として最初に議事録に登場する、チャールズ・ブリッジ、サミュエル・マイケルの2人は、1699年5月11日のSPCKの集会に初めて参加して後、著者が保有する1704年までの議事録において、そのどちらかはほぼ全ての集会に参加し、慈善学校の種々の報告、SPCKに対する慈善学校からの依頼の取次ぎなどを行っていたことが明記されている。彼らは、慈善学校の様々な実務や設立のための広報、さらには会費の募集などの役割を負い、慈善学校の普及において極めて重要な役割を担うようになっていった。これらの詳細な記述は後ほど行うが、SPCKが慈善学校を全国に展開する上で、その果たした役割は極めて重要であったことが理解できる。

彼らがいかなる人物であるかは、それを裏付ける資料がなく、各種の研究の中でも明確な提示は一切されていない。さらにスキート氏・ガードナー氏という人物が、執行員として働いていたと考えられるが、彼らについての資料はさらに乏しい。

当初、彼らはボランティアとしてこの業務に携わっていたように思われるが、1701年の2月以降にはSPCKから確定した給与を受け、専従の職員としてこの職務を遂行していくこととなったと思われる（3/2/1701）^v。しかも、彼らの業務があまりにも激務であることが考慮され、これに先立つ1701年の1月から助手を雇い、その費用をSPCKが拠出することが決定されていた（6/1/1701）^{vi}。

また、執行員は当初、会員との間に明瞭な位階の差はなかったように思われ、集会の開会当初から参加していたものと思われるが、1702年中ごろからは、必要な時に集会の途中に呼び入れられる、会員の下位に位置づけられた存在となったようである（18/6/1702）^{vii}。

以下、主に議事録に著されたこの執行員の業務等について記す。

① 執行員の実務

執行員は、極めて重要な役割を慈善学校運動の中で担っていた。彼らは、慈善学校運動全体のための役割を担うと同時に、個々の慈善学校に関わる様々な働きを行っていた。それは、以下に記すように、極めて膨大な業務であり、かつ慈善学校運動を実質的に背負っていたといえる、重要な役割であった。

1. 各慈善学校創設のための運動

まず、執行員は、各地に慈善学校を創設するために様々な働きをしていたことが、議事録から読み取れる。主な内容として以下のものが挙げられる。

会員・会費の募集

執行員は各地の慈善学校の会員や教員と協力して会員を募集し、十分な会費が集まるように尽力していた。

例えば、1699年11月30日には「慈善学校が設立されたいくつかの教区の有為の人々のリストの作成」

^v McClure 編の SPCK 議事録によると、以降、議事録内容については（日/月/西暦年）で表していく。なお、この箇所の内容は以下のものである。「年間20ポンドが（四半期ごとに）彼らの判断（discretion）に従い、慈善学校の支援（Encouragement）のための業務を行うために、執行員たち（Agents）に支払われることが命じられた。最初の支払い（payment）は受胎告知の日（Lady-day）に行われる。コグハン氏（Mr.Coghan）の指示のもとに、1月13日および27日」

^{vi} 「助手（Assistant）の給与（Salary）が集会（meeting）で考察されることが命じられた」

^{vii} 「11. 学校の執行員（Agents for Schools）が呼び入れられた（being call'd in）。」

^{viii} 「8. ブリッジ氏（Mr. Bridges）に、次回の協会（Society）の集会（meeting）に、学校が設立されたいくつかの教区（Parish）で、学校を運営するのにふさわしい有為の人々（persons of quality）のリスト（list）を提出することが命じられた。」

を SPCK から命じられたことが示されている^{xiii}。このためには、当然足しげく、それらの教区に通い情報を収集する必要があった。

また、最も多くの時間を使って、諸慈善学校の会費の充足度を SPCK に報告していることから、彼らが会費の募集に深く関わっていたことが理解できる。この議事録が記録している5年の間に、彼らは実に43件の会費の状況報告を行っていた。また、彼らが会費について報告した慈善学校の数は31にのぼっている。

設立の実務

彼らは会費の募集だけでなく、多くの慈善学校設立のための業務に携わっていた。

たとえば、1699年5月18日の報告^{ix}で、聖ジョージ教区において十分に会費が集まり、教区事務所から協力が約束されたにもかかわらず^x、1699年7月20日の集会においては、執行員たちは、慈善学校の立ち上げに妨害があり、困難な状況にあるとのことから、一人の教員と協力して学校の設立に携わるよう、SPCK から命じられた^{xi}ケースもあった。この学校は、彼らの努力もあり、1699年10月5日の集会で設立されることになったとの報告がされている^{xii}。

さらには設立のための具体的準備作業として、慈善学校が設立された際に、貧困児童の親が児童の出席に同意するよう指導する、という使命を SPCK から命じられているケースもあった(30/11/1699)^{xiii}。

また、彼らは各慈善学校を設立しようとする人たちと、SPCK との橋渡しの役割を担っていた。1702年6月25日の記述には、慈善学校設立のための、キドリントン(Kidlington)の通信会員からの提案書を彼らが提出したことが書かれている。また、彼らがいくつもの学校の設立を SPCK に報告していたことも記載されており^{xiv}、これから慈善学校を設立しようとする人々の相談をも請け負っていた(27/5/1703)^{xv}。

また、上述のように、聖ジョージ教区における慈善学校の設立時期を、教区の賛同を取り付けるために遅らせるという記述があるが、これは彼らが教区との間で設立のための折衝を行っていたであろうと

^{ix} これは、執行員の最初の報告である。

^x 「5.ブリッジ氏(Mr. Bridges)とマイケル氏(Mr. Michell)は、サウスワーク(Southwark)の聖ジョージ教区(parish of St. George)で、教区牧師(Minister)と協会(Society)と、その他の人々により、その教区の学校のために、年60ポンドの会費が約束されたこと、また教区事務官(officers of that parish)が協力(assistance)を約束(promise)してくれたことを報告した。」

^{xi} 「4.執行員(Agents)は、学校男性教師(Schoolmaster)とともに、直ちにその教区(Parish)で学校を設立するために対応するよう命じられた。」

^{xii} 「2.スケート氏(Mr. Skate)はサウスワーク(Southwark)の聖ジョージ(St. George)の学校が設立にかかっていることを報告した。」

^{xiii} 「5.公に、教理問答を告白した(publicly catechised)子供たちが、出席することを許された学校に出席させるよう、その子らの両親に執行員が要求する、そのような無料の学校(Free Schools)を建設することを、執行員に教示する解決が与えられた。」

^{xiv} 21/9/1699に1校、30/11/1699に14校、4/1/1700に3校、18/1/1700に1校、15/2/1700に1校、20/6/1700に1校、23/12/1700に1校、13/1/1701に2校、20/1/1701に1校、7/4/1701に2校、11/6/1702に1校、18/6/1702に1校、25/6/1702に1校、9/7/1702に1校、23/7/1702に1校、19/11/1702に3校、18/2/1703に3校、1/8/1703に1校、10/6/1703に1校、という慈善学校の設立の報告が記載されている。全部で19回、40校の設立に関する報告が行われている。

^{xv} 「3.ブレイ博士は、最近ハートフォードシャー(Hertfordshire)のウェア(Ware)を訪問した際、その貧しい住民(poor Inhabitants)にとって、慈善学校を建設(Erection)することは大きな利益(great Benefit)となると感じたことを協会に告げた。

4.執行員は上記の事項(Matter)について、次回の集会までに相談を受ける(be consulted)よう命じられた。」

^{xvi} 「1.ブリッジ氏(Mr. Bridges)とシューツ氏(Mr. Shute)は、サウスワークの聖ジョージにある学校の建設の延期(defer)を教区事務官(Parish officers)らと合意(agreement)することを期待するとの報告が行われた」

^{xvii} 「2. Mr. Bridges reports that a Schoolroom is taken in Hungerford Markett,」〔ブリッジ氏は、ハンガーフォードの市場において教室を取得したとの報告を行った。〕

いう事実を示す^{xvi}。また、実務作業として教室の調達に関しても関わっていた（13/7/1699）^{xvii}。時にはSPCKの推薦によるが、教員を決める作業さえ、執行員が行うことがあった（9/5/1700）^{xviii}。

このように、彼らが慈善学校の設立に関与したことが明白な学校は、4年間に40もの数に達する。すなわち、平均すると、彼らは年間10校もの慈善学校の設立に関与していたことになる。

2. SPCKの組織外の諸機関との折衝

1に示したように、執行員は慈善学校の設立について教区と折衝を行うことがあったように、他の組織との間の連絡・協力の実務に携わっているケースも多々あった。

例えば、当初からSPCKが慈善学校の模範としていた、ドイツのハレにあるDr.フランケの主催する教理学校との実質的連絡も彼らが行っていた（Brunner 1993:73-79）。そして、前述のように教区事務所の協力を取り付けるなど、特に地域の教区との折衝も担っていた（25/5/1699）^{xix}。さらには、いくつかの宗教協会への連絡の役割も負っていた（25/1/1700）^{xx}。

このように、慈善学校に関するSPCK以外の諸組織との折衝も執行員の任務であった。特に、慈善学校創設のため、教区の事務所や教会関係者とは度々折衝を持ったと思われる。

3. SPCKへの支援依頼

SPCKへの、各慈善学校からの様々な依頼を仲介する業務も、設立作業のみに限らず執行員の役割であった。彼らはSPCKに、個別慈善学校への金銭的支援も要請している（26/10/1699）^{xxi}し、慈善学校教員の給与を保障するという依頼も行っていた（20/1/1704）^{xxii}。さらには、教員が必要とする諸費用を援助するよう依頼した（10/10/1700）^{xxiii}ことさえあった。

このように彼らは、主に慈善学校の出費を保障するよう、各慈善学校の依頼に答えてSPCKに要請する役割を果たしていた。

しかし、各慈善学校からの要請は、単に金銭的なことに止まらず、次項の改善内容と重なるが、様々な課題について、SPCKに執行員を通して依頼が行われた。例えば、教区の牧師でその地域の副監督にあたる人物から、学校のことをSPCKに推薦して欲しいとの依頼を受け伝えた（8/2/1700）^{xxiv}。また、生徒から金銭を搾取している教師の問題をSPCKに伝えているケースもあった（20/6/1700）^{xxv}。

このように、執行員は各慈善学校と連絡を取り合い、SPCKへの橋渡しの役も勤めていた。

^{xviii}「ブックナー夫人（Mrs. Buckner）は、聖マルチン教区（parish of St. Martin's）での会費がそろい次第、執行員たちに対して、女教員（Schoolmistress）として推薦（recommend）されることが決定された。」

^{xix}「3.ブリッジ氏（Mr. Bridges）とマイケル氏（Mr. Michell）は、聖アンドリュウ教区（St. Andrew）の事務員（Officers）が学校の立ち上げに、会員たち（Subscribers）と共に協力（join）してくれることを報告した」

^{xx}「協会は、いくつかの宗教協会（Religious Societies）からアドバイス（Advice）をしてほしいとの要請があることを知らされた。そこで、この協会は、彼らがいかなる困難（Difficulties）にも対応できるようアドバイスし、協力する用意をすることとし、さらに学校の執行員（Agent）ブリッジ氏（Mr. Bridge）に、この決定（Resolution）をかれらに伝えることを要請した。」

^{xxi}「4.ブリッジ氏（Mr. Bridge）はクリップルゲート教区（Cripplegate parish）の会費（Subscription）は学校の運営に十分ではなく、教員（Schoolmasters）の一人が出てこれない状況にあるとの報告を行った。」

^{xxii}「5.シューツ氏（Mr. Shute）がその事態について担当することを依頼された。」

「ミッチェル氏（Mr. Mithcel）がブレントフォード（Brentford）の学校の現状（present state）について以下のように報告した。その学校の教員（Schoolmaster）は個人的手当て（private Allowances）で暮らしており、5ポンドの負債（debt）を負っている。協会は彼らより要求がなされたなら、この5ポンドを保証（ensure）することを約束した。」

^{xxiii}「サウスワーク（Southwark）の教員（Schoolmaster）の用に寄すために、執行員（Agents）に対して5ポンドを支払うことが命じられた。」

^{xxiv}「ブリッジ氏（Mr. Bridge）は聖クレメント（St. Clements）教区の学校から、ウィンドソー（Windsor）の副監督（Dean）で地区の牧師（minister）に推薦（Recommendation）をして欲しいとの依頼を報告した」

^{xxv}「幾人かの教師（Schoolmasters）が子どもたちから金銭を巻き上げ（exort）ている。」

4. 各慈善学校改善の為の働き

執行員は、これまで述べたような、間接的に慈善学校にかかわっていただけでなく、直接、各慈善学校を改善するための以下のような活動も行っていた。

教育内容に関する指導

執行員は各慈善学校の教育内容の指導も行っていた。例えば、彼らは教員の養成の方策を作成し、SPCK に提出している (14/10/1703) ^{xxvi} (4/11/1703) ^{xxvii} し、問題のある教員の直接指導を行ったこともあった (25/11/1703) ^{xxviii}。さらには、不正を行う教員の摘発と処罰を、SPCK の指導のもとに行ったことすらあった (20/6/1700) ^{xxix}。

教員自身の問題への対応のみでなく、特に未熟な地方の教員への児童の指導方法教授を、執行員が間接的ながら指導していたこともある (14/10/1703) ^{xxx}

このように、児童指導の具体的対応を行っていたことが伺える。

経営に関する指導

執行員は、こうした教育内容に関する改善のみでなく、各慈善学校の経営に関して指導することもあった。

例えばあるときには、理事たちが、自分の子どもたちを貧困児童でないにも関わらず、慈善学校に入校させるという不正を起こしたことを摘発し、SPCK の指導により、その改善を行わせた (22/4/1703) ^{xxxi}。また、「設立の実務」にも述べたように、慈善学校の教室を調達することもあった。

こうした、経営・運営に関する指導も彼らの業務の中に入っていたのである。

5. 慈善学校に関する調査・報告の実務

彼らは慈善学校に関する様々な調査を行い、SPCK への報告のみでなく一般に配布される慈善学校報告の実務をこなしていった。このような調査・報告の実務が以下のように議事録には書かれている。

SPCK への報告

執行員は度々 SPCK の集会に参加し、これまで述べてきたような慈善学校に関する様々な報告を行っ

^{xxvi}「7. 執行員 (Agents) が中へと呼ばれる。」

8. 執行員に地方の慈善学校教員 (Charity-School-master) の適当な鍛錬の方法 (proper Method of training up) について考えるよう勧められた」

^{xxvii}「9. スタッブ氏 (Mr. Stubs) が、上記の委員会 (Committee) から以下の意見 (Opinion) があったことが報告された。それは、慈善学校教員 (Masters for the Charity-School) の育成 (Training up) に関する執行員の提案 (Proposals) の最初の3つの項目 (Articles) が、それらの諸学校への命令書 (Paper of Orders) の中に次刷 (next Impression) から挿入されるべきとの意見 (Opinion) が出されたことであり、協会 (Society) で承認された。」

^{xxviii}「シャドウエル (Shadwell) の教員 (School-master) パワー氏 (Mr. Power) の問題ある指導 (ill conduct) について、執行員は彼に関わる (concern) よう命じられた。」

^{xxix}「いかなる教員 (Schoolmaster) も児童からどのような謝礼 (Present) も祝儀 (Gratuity) も受け取ってはならず、罰則 (pain) として彼の事務所は没収 (forfeight) される、という解決が与えられた」

^{xxx}「地方における慈善学校教員を教科するよき方策を、次回の集会までに作成して提出することが執行員に求められた。」

^{xxxi}「彼 (スキート氏) は、秩序正しく行われる (very exact order) ために彼らにかかわる全ての事項を見るため、執行員が行っている各慈善学校の巡回 (Visitation) の中で、ある学校で幾人かの理事 (some of Trustees) が、彼ら自身の子どもたちを、貧困児童 (Poor Children) と共に教えさせていると報告した。

本協会 (this Society) は、これらの2つの誤り (Mischief) を、理事たちへの適切な指導 (proper Application) によって、取り除く (obviate) よう努力する (endeavour) ことによって、解決した」

ていた。主には、会費の収集状況や学校の設立状況である。しかも、その報告を文書の形にして提出していた。この報告は、毎週木曜に提出され、集会へともたらされていた（22/2/1700）^{xxxii}。

慈善学校に協力してくれる人物の調査

執行員は何箇所かの教区を調査して、慈善学校を運営していくためにふさわしい、その地域の有為の人材を調べ（30/11/1699）^{xxxiii}、学校の運営を良くしていくという役割を行うこともあった。

慈善学校報告のための基礎資料作成

慈善学校の大きな特徴の一つとして、全国にわたる慈善学校に関する数値を明示した報告の作成があった。この資料は、数値による各慈善学校の現状に関する情報を公開するという慈善学校の近代性を示すものである。この報告は1704年に始めて発刊され、以降毎年発行された。

執行員は、その基礎的数値を収集することを委託されており、たとえば

ロンドンおよびウェストminster周辺の慈善学校の数、それらの学校が保持している場（Places）の数量、それぞれの学校を維持するために集められる会費の金額（sums subscrib'd）、学校の男性教員（Schoolmasters）・女性教員（Schoolmistress）の名前、各学校で教えを受けている少年・少女の人数、各学校で何人が衣服を与えられているか、同じく何人が徒弟（Apprentices）に出されているか（30/12/1700）

という情報を早急にSPCKに提出するように命令を受けている。

また、こうした情報を基にして、上記の「慈善学校報告」“The Account of Charity Schools”が完成されていくことが記されているが、その刊行の際にも最終的検討を、SPCKの書記と共に執行員が行うよう命じられたことが明記されている（3/6/1703）^{xxxiv}。こうして刊行された「慈善学校報告」には、基本情報として各教区の学校数、少年・少女の数、各慈善学校の年会費の総額、同じく各慈善学校の慈善説教^{xxxv}等を通して集められたその年の寄付金の総額、徒弟奉公に出された子どもたちの人数が記載されていた^{xxxvi}。

この慈善学校の基礎資料ともいべき「慈善学校報告」も執行員の手によって情報の収集が行われていた。

6. 慈善学校運動の展開のための諸業務

執行員は、各学校への関与のみでなく、以下に示すように、慈善学校運動そのものへの関わりも持っていた。

慈善学校運営のための指針の作成

^{xxxii}「事務室（Chambers）が、毎週木曜、夕方5時くらいまでに、慈善学校の執行員（Agents）より報告（Reports）を受ける」

^{xxxiii}「8.ブリッジ氏（Mr. Bridge）は次回の集会（meeting）に、学校が設立されているいくつかの教区（Parish）で、学校を運営（promote）していくのにふさわしい有為の人材（persons of quality）のリスト（list）を提出するよう命じられた。」

^{xxxiv}「書記（Secretary）は学校のリスト（List）の不足への加筆（Addition）を行い、学校の報告の新しい版（new Edition）を刊行するよう企画（design）しているリストを完成させるため、学校の執行員（Agents）と協議（communicate）するよう命じられた。」

^{xxxv}慈善学校の支援のために行われる教会の説教で、その場での献金は全て慈善学校への寄付となる。

^{xxxvi}そのような基礎的数値情報のほかに、会費の募集の仕方、慈善学校設立のための規則の雛形、教員の選任のための条件、会費誓約書の基本様式、児童一人当たりにかかる費用の概算、児童の評価表など多くの情報が記されている。

執行員は、各慈善学校を経営するための指針を作成している。これは、後日慈善学校報告に記載され、全国の慈善学校運営のための基本となっていく。その最初の記述「フリースクールの経営のための方策のSPCKへの提出」が記載されているのはSPCK創設からわずか5ヶ月後である(17/8/1699)^{xxxvii}。その後も、1701年11月26日から1701年12月2日にかけて作成・検討された、慈善信託の運用の指針の作成^{xxxviii}など、多くの運営に関する指針・方策の作成が執行員の手にゆだねられていた。

慈善学校の現状調査

5の「慈善学校報告のための基礎資料作成」に示したように、SPCKは毎年「慈善学校報告」を刊行し、運動の展開に努力してきた。その情報収集は、特にロンドン周辺の情報収集は執行員の役目であり、運動の中心的役割を担っていた。

文書の配布

SPCK発刊の教化的文書の、児童たちへの広域にわたる配布も執行員の役割として行っていた。たとえば、1701年4月7日の記録には、『『クリスチャン学生(Christian Scholar)』と呼ばれる本の写し100冊を、執行員の判断において配布するよう命じられた』という記載があり、同6月16日には「100冊の写しが、執行員により慈善学校を卒業した学生たちに配布された」という報告がなされている。つまり、一つの学校に限られない文書の配布が執行員の手で行われていた。

慈善学校運動への寄付

執行員は、また、運動そのものへの援助のための「会費様式」を作り、それを配布し、運動自体のために会費を集める役割をも担っていた(12/1/1702)。

② 執行員の活動範囲

執行員はこのわずか4年の記録に記載されたもののみでも、主にロンドン内の教区を中心としてではあるが、以下の表に示すように36もの教区に及ぶ慈善学校にかかわってきた。なお以下の表は、SPCK議事録より筆者が作成した。

その中には、セントジョージ教区の慈善学校のように1699年の5月から1700年の2月にいたるわずか半年の間に9回も報告の中で関わりが記載されたところさえある。このように深い関わりを持ちつつ多くの学校に携わることは、彼らの仕事がいかに激務であったかを示す。

このような状況を考えると、執行員の業務は、ほとんど寝る暇もないような激しいものであったことがうかがえる。実際、彼らはその業務の過酷さのゆえに、何とか軽減できる手段はないかと、SPCKに訴えていた(6/1/1701)^{xxxix}。

^{xxxvii}「4.ブリッジ氏(Mr. Bridge)は本協会に『フリースクール(Free School)経営(Management)に関する方策(Methods)』という書類(Paper)を提出した。この方策は読まれ(read)、討議され(debate)、修正され(correct)した後、本協会によって印刷に回されることが命じられた。」

^{xxxviii}「21.執行員(Agents)は、普遍的(in General)に通用する慈善学校への慈善信託(Trust)の運用方法(Method for the Management)に関する仕組み(Scheme)を協会に提出するよう要請された。」(26/11/1701)「5.慈善学校の執行員(Agents for Schools)は、普遍的に通用する学校への慈善献金(Charitable Contribution)の運用(managing)と徴収(raising)するための彼らの仕組み(Scheme)また提案(Proposals)を提出し、読まれた」(2/12/1701)

^{xxxix}「ブリッジ氏(Mr. Bridge)は協会に、執行員の上に課された業務(business)が如何に過重(heavy)であるかを報告した。」

表 1

執行員の関与が記述された各慈善学校	
学校名（教区名の場合が多い）	地域（推定）
Aldgate	London
Bishop's Gate	London
Brentford	London
Clerkenwell	London
Cripplegate	London
Hungerford Market	London
Kidlington	Oxford北方
Margaret's Church in Westminster	London
new Chappel near Tuttle-Fields、	Greater Londonの可能性高し
Petty-France	London
Poplar	London
Shadwell	London
Southwark	London
Shoreditch	London
Southwark	London
Spittle-fields	London
St. Albans	London北方
St. Andrew's Parish	London
St. Anns	London
St. Clements	London
St. Edmunds Parish at Sarisbury	Sarisbury
St. James's	London
St. Katherine's	London
St. Margaret's	London
St. Martins	London
St. Martin's-for girls	London
St. Peter's	London
St. Sepulcher's	不明
the Grey Coat Hospital at Westminster	London
The parish of St. George, Southwark	London
Twickenham	London
Wapping	London
Ware in Hertfordshire	London郊外北方
Westminster	London
Woolwich	London

③ 執行員の業務の重要性

執行員は、このように慈善学校運動の中で決定的とも言える重要な役割を担っていたといえる。この議事録には、足掛け5年にわたる集会の記録があり、その中で慈善学校について関与している事項は213項目に及び、その記録の回数は152回もの多きにわたる。このうち、執行員が関与したことが明示されていない箇所は、わずかに50項目、32回にしかすぎない。しかも、これは明示されていないだけで、関与していないとは記されてはいない。おそらく彼らは、この部分でもなんらかの役割を担っていたのではないかということが推定される。彼らの役割はまさに、この慈善学校運動の命運を握る役割であったのであり、むしろその主役であったとさえ言えるのではないだろうか。

同時に、彼らは組織の一員として、SPCKの集会に服属している存在であった。これら全ての業務が、

集会の命令のもとに行われていたことを忘れてはならない。また、先述したように専従化も行われた。書記と同様、彼らも組織に属する官僚という存在に近づいていたといえる。

3. 終わりに

以上見てきたように、慈善学校運動においては、運動の事務を司る書記、運動の実務を司る執行員という、運動の組織的業務に携わる専従の職員が存在した。彼らは、有給の専従職員として、膨大な文書の作成・保存、連絡という役割を担っていた。これらは、先述したウェーバーの6つの官僚的要素(1)明確な規則によって整除された権限の原則が存在する。(2)「官職位階制と審級性との原則」が存在する。(3)職務の遂行は文書に基づく。(4)専門的な職務活動は特別な専門教育を前提とする。(5)職務上の完全な活動は業務の兼務を許さぬ全労働力の発揮を要求する。(6)職務の遂行は明確で習得可能な規則に従って行われること(Weber=1971: 302-303)のうち、(3)と(5)にあたる。

さらに、当初は地位において、会員と明確な差のなかった執行員が、先述のように集会の途中から呼び入れられる存在として、会員の権威のもとに指示を受ける存在となっている点等は、組織としての位階制の発達を示している。

一方、書記については、上記のSPCKのルールに明確に、その職務が規定されている。その点で、(1)の明確な規則によって整除された権限の原則が、はっきりと存在した職制である。さらに、このことは(6)の習得可能な規則による職務の遂行をも示す。

さらには、上記のように両職種とも専従職化していったが、その点では、執行員の方がはるかに早く専従化していったものと思われる。彼らの業務の多忙さが、この専従化をもたらすのである。先述したように、執行員は1701年の時点ですでに有給職員となっていくのであるが、その時点での書記の地位については、明確な記録はない。しかし、クラークが述べるように1708年には有給・専従化していたと思われる。

執行員の業務は、各慈善学校の会員・会費の募集に協力したり、教区との間で連携をとれるよう調節したり、と組織的な活動になるよう様々に働いていたことがわかる。こうして、全国の慈善学校を目標にふさわしいものにするよう、連携・組織化する活動に励んでいた。

また、書記の業務は、規約にあるように、SPCKのあらゆる活動を文書において支え、保証していた。また、執行員が慈善学校に関する連絡等を担っていたことに対して、通信会員との連絡の実務を担っており、SPCK内部の組織的連携の実務を担当していた。

こうした組織的な活動の基盤として従事する彼らの、官僚としての働き(少なくとも官僚へと向かう存在としての働き)があつて初めて、SPCKの慈善学校運動が、単発の事業でなく、イギリス全土にわたる運動として、その実をあげていくことになるのである。

文献

- Blue Coat Charity School (1832) A short Account of the Blue Coat Charity School in St. Philip's church yard, Birmingham, from its institution in 1724, to 1830. H.C.Langbridge.
- Brunner, Daniel L (1993) Halle Pietists in England : Anthony William Boehm and the Society for Promoting Christian Knowledge. Vandenhoeck & Ruprecht.
- Clark, Peter (2000) British Clubs and Societies 1580-1800 : The Origins of an Associational World. Oxford University Press.
- Gray-Coat Charity School (1765) An Account of the Gray-Coat Charity School in Oxford
- Jones, M.G. (1938) The Charity School Movement - A Study of Eighteenth Century Puritanism in Action. Cambridge at the University Press.
- McClure, Edmund ed (1888) A chapter in English Church History : Being The Minutes of the Society for Promoting Christian Knowledge for the Years 1698-1704. Society for Promoting Christian Knowledge.

- Owen, David (1964) English Philanthropy 1660-1960. The Belknap Press of Harvard University Press.
- Royal Society (1710) An Account of the Late Proceedings in the Council of the Royal Society in order to remove from Gresham-College into Crane-Court, in Fleet-Street, J.Morphew. London.
- Society for Promoting Christian Knowledge (1732) The Standing Order of the Society for Promoting Christian Knowledge. Joseph Downing.
- Unknown (1759) An Abstract of the Regulations and Statutes of the Charity-School, Orphan-Hospital and Workhouse at Edinngurgh.
- Weber, Max (1947) Typen der Herrschaft, Erster Teil, Kap. III u. Dritter TeilKap. I - IV (=2012 濱島 朗訳『権力と支配』講談社)
- Weber, Max (1964) Wesen, Voraussetzungen und Entfaltung der bürokratischen Herrschaft, Johannes Winckelmann ed. Wirshaft und Gesellsht, Grundriss der verstehenden. Kiepenheuer & Witsch, 703-738. (= 1971 濱島 朗訳「官僚制的支配の本質, 諸前提および展開」濱島 朗編『現代社会学大系5 ウェーバー社会学論集 - 方法・宗教・政治 -』青木書店 302-361.)